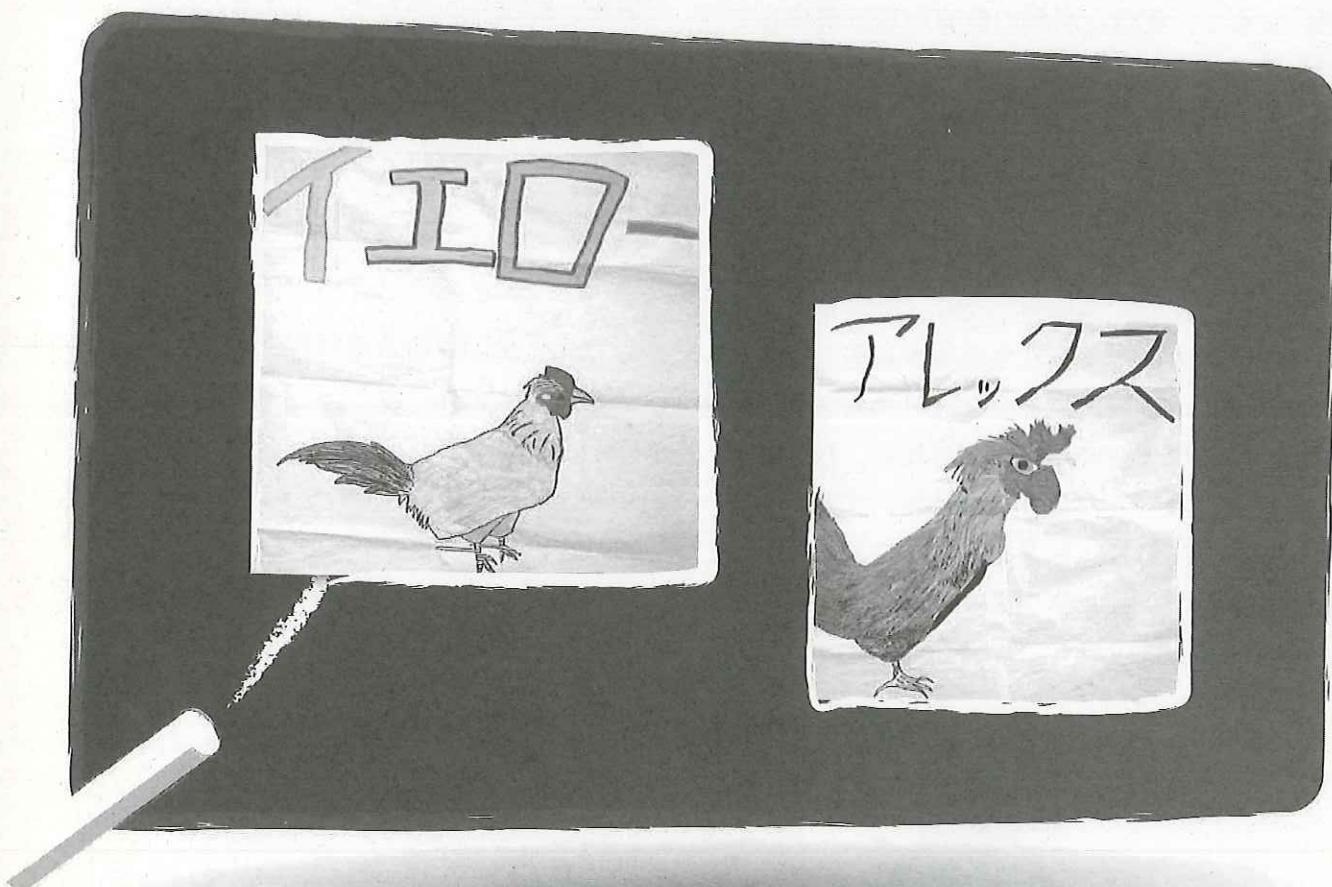


高病原性鳥インフルエンザと 学校飼育鶏

—安心してふれあうために—



平成20年10月
社団法人全国家畜畜産物衛生指導協会

高病原性鳥インフルエンザと学校飼育鶏

—安心してふれあうために—

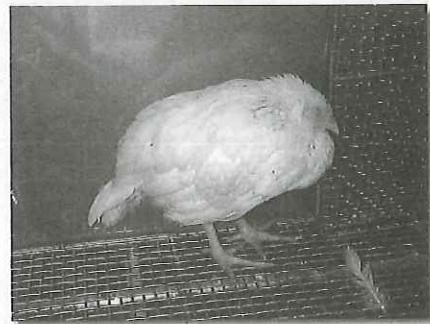
大切な学校飼育鶏

- ①子どもたちがチャボや鶏とふれあうことにより、子どもたちは生命の尊さを学び、生き物としての鳥類を学ぶことができます。
- ②特に、チャボは性格がやさしく、ひなを育て、親子や夫婦の愛情を示すため、多くの幼稚園や学校で飼育され、子どもたちにかわいがられています(写真)。



学校のチャボや鶏と高病原性鳥インフルエンザ

- ①高病原性鳥インフルエンザは、鳥インフルエンザウイルスの中でも、特に鶏に病気を起こす力が強い種類のウイルスにより起こる病気です。
- ②鶏やチャボは、このウイルスに感染した水鳥や水鳥の生活水とふれることで、この病気にかかりますが、必要以上にこの病気にかかる心配する必要はありません。
- ③鶏が食欲をなくし、体を膨らませてうずくまっている時は、何らかの病気にかかっているときですが、このウイルスに感染した場合は、多くの場合、元気をなくし(写真)、すぐに死亡してしまいます。餌も水も足りていて、複数の鶏がバタバタ死ぬ場合は、この病気かもしれません。健康な鶏は心配する必要はありません。
- ④鶏やチャボがこの病気にかかった場合は、法律に基づいて最寄りの家畜保健衛生所に届出をする必要があります。



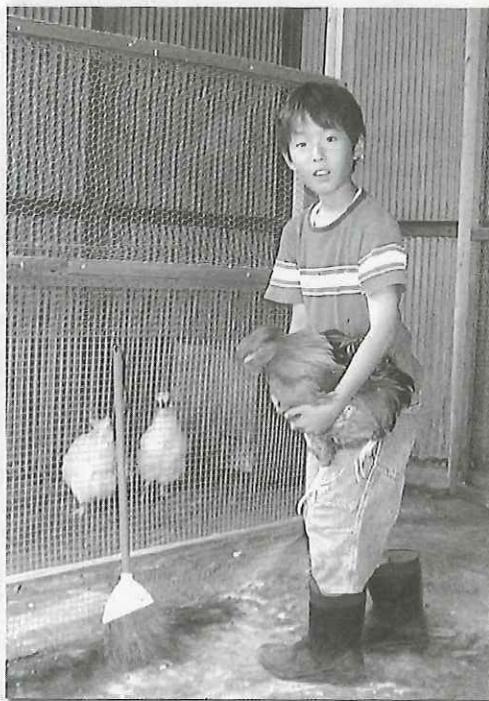
高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染し、元気をなくしている鶏。

● 学校で高病原性鳥インフルエンザ対策として注意する点 ●

日頃から獣医師さん(家畜保健衛生所、動物病院)と連絡をとって、飼育方法などの助言と指導を受けられる関係をつくりましょう。(獣医師さんは幼稚園や学校を支援しています)

飼うときの一般的な注意

- ①毎日鶏たちの糞を掃除して、新鮮な水と餌を朝・夕の2回与え、鶏やチャボたちの健康を維持してあげましょう(写真)。
- ②普段から毎日動物の様子をよく見て、「元気であること」、「痩せていないか」、「怪我をしていないか」などを確かめましょう。子どもたちが鶏やチャボとのふれあいを深めるためにも、とても大切なことです。
- ③飼育舎は、暑さ寒さに気をつけ、落葉樹を利用して、夏の日陰と冬の日当たりを確保しましょう。また、冬には巣箱をいれるなど寒さから鶏やチャボを守り、病気にさせないようにしましょう。
- ④子どもたちに、日頃から、飼育舎の掃除などの作業や外遊びの後の手洗いとうがいの習慣をつけさせましょう。



鶏やチャボを感染から守るために

- ①鶏やチャボが、野生の水鳥や水鳥の生活水と接触することを避けましょう。
- ②掃除のときには、餌の食べ残しや餌こぼれを片付けましょう。また、餌を保管する入れ物には、必ずふたをし、野鳥やネズミが来て病気をうつす機会をなくしましょう。
- ③飼育舎の金網に、穴などがあれば補修しましょう。

飼育している鶏やチャボに異常があった場合には

鶏やチャボに元気がないときやほぼ同時期に死ぬ場合は、すぐに獣医師さんに相談して、治療や指示などを受けましょう。

ご心配な時には

まず、学校において動物の飼育方法や健康管理について助言・指導している獣医師さんや、最寄りの家畜保健衛生所に相談しましょう。獣医師さんは、必要なら家畜保健衛生所と相談して、高病原性鳥インフルエンザについても適切な助言や指導をしてくれます。

1. お近くの家畜保健衛生所

2. 地元の市町村役場

3. お近くの動物病院

- 近くの都道府県で高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、獣医師さんが家畜保健衛生所と相談し、必要に応じて、どうすべきかを指示をしてくれます。その指示にしたがい、心配せずに子どもと鶏をふれ合わせてください。
- 獣医師の助言等を必要とする場合は、都道府県等の獣医師会あるいは全国学校飼育動物獣医師連絡協議会(電話番号0422-53-7099)にご相談下さい。

社団法人全国家畜産物衛生指導協会

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-20-9 緬羊会館内
TEL 03 (3833) 3861 FAX 03 (3833) 3864

【要望書の提出】

- ・厚木市教育委員会宛、以下のような要望書が、平成20年10月に提出されました。

厚木市立教育委員会教育長様

平成20年10月 日

全国学校動物飼育研究会会員

西 勝海

厚木愛甲獣医師会会长

青木泰道

要望書

「学校動物飼育活動の改善について」

貴職におかれましてはますますご清栄のことお慶び申し上げます。

さて、学校における動物飼育活動は、学校週五日制の実施から世話体制の困難さが発生し、鳥インフルエンザの発生等から忌避の機運が生じ、活動の衰退が指摘されているところであります。私は、全国学校動物飼育研究会の会員として、本市の小学校動物飼育活動の実際について研究してきたところであります。本市でも大きく活動の衰退が見られ設定そのものが消滅していることがわかりました。（資料1の①、②）

子ども時代に動物を身近に飼育体験することは、生命尊重の学習はもとより、さまざまな教育効果をもたらすことは明白なことと思います。私は、小学校に在職中多くの実践に接し、飼育活動は教育活動のよい教材であり子どもの人格形成によい結果をもたらすことを実感してきました。私の研究（資料2）からは実際に飼育活動に携わる体験が子どもたちの意欲関心および識見獲得によい結果をもたらしていることがわかりました。

愛甲小学校の実践である学年飼育（3年生のセキセイインコ飼育活動及び4年生のニワトリ飼育活動）は、特色ある教育活動の一つであると捉えることができることと思います。学校動物飼育の活動は、主に特別活動として設定されていますが、学年の全員による飼育活動に位置付けている例はまだ全国的には少なく先見的な実践です。

しかし、小学校で動物を飼育する活動は、教育課程への位置づけが不明確や教師の動物飼育の理解・技量不足等からますます消滅しつつあります。実際に飼育を継続している学校でも、その負担の大きさ、動物の健康管理など課題が大きく教師の意欲減退になっているようです。実際に飼育がされていてもその動物の飼育状態は劣悪な状態になっている場合があります。

平成20年3月公示された新しい学習指導要領には、生活科で「動物と植物の双方を継続して飼ったり育てたりして・・」とはいり、理科では4年の学習内容に「人と体のつくりと運動」が追加されました。これは6年の「人の体のつくりと働き」の学習につながるもので、さらに解説書において理科では記述の中にも「他の動物・学校飼育動物の観察」という言葉が使われています。生活科および新たに特別活動の解説書の中でも、より良い飼育体験を子どもたちに与えるためには、専門家である獣医師の方の支援が必要であると明記されています。

このようなことを鑑みて、下記の事項の改善に努められるよう要望します。

- 1 学年飼育活動の教育課程への位置づけ調査及び確立。
- 2 動物飼育に係る技術講習会の実施。
- 3 子どもたちの飼育活動に係る学習価値の評価。
- 4 動物飼育活動に係るサポート体制の確立。

なお、動物飼育の具体的な技術指導については、厚木愛甲獣医師会の協力が得られことを申し添えます。